



岡村病院  
院内報

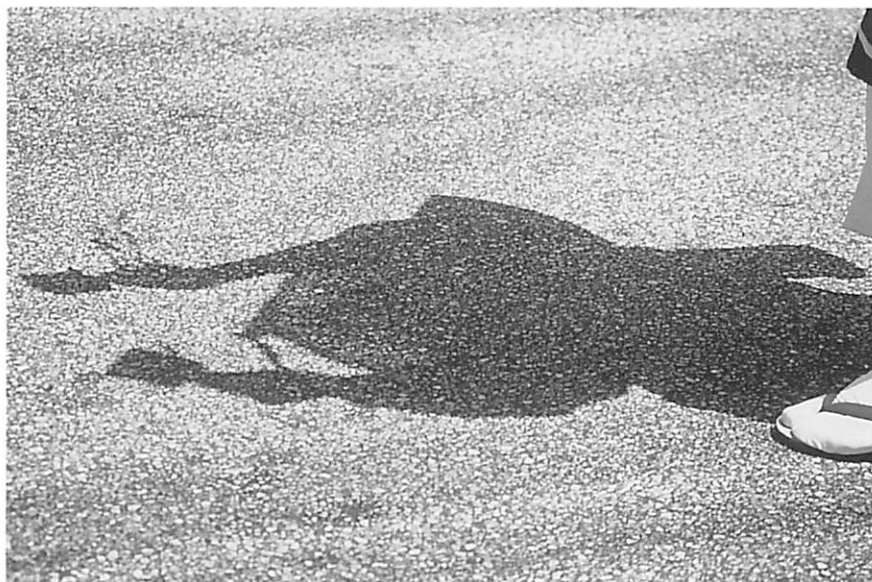
# 歩 (あゆみ)

第 35 号

発行 岡村病院  
編集 歩 (あゆみ)  
編集委員会  
平成11年 8月10日

## 岡村病院 基本理念

私たちは、患者さん本位を第一に考え  
高度な専門医療技術をもって  
地域社会に貢献することを目指します。



「夏祭り」

小谷了一先生 写

## チャレンジ3 CHALLENGE・3

今月のことば

### 「家族であったら……」

**1**  
私たちは、いつも「おもいやり」と  
「積極性」をもって患者さんから愛される  
病院づくりにチャレンジします！

**2**  
私たちは、高度な医療技術と専門性を  
もって、地域社会からより一層信頼される  
病院づくりにチャレンジします！

**3**  
私たちは、一人一人が専門家としての自負  
と責任をもち、明るく、さわやかで発展的  
な病院づくりにチャレンジします！

ある幼児施設の責任者の方が若い保母さんに  
「子供を扱っていて、どうしてよいか分からない  
ことがあったら、『自分の子供だったらどうする  
か』を考えなさい。」と言っておられるのを聞いた  
ことがあります。

医療に携わる私共も、患者さんが自分の両親  
や家族であったらどうするかを考えて見ることも  
必要ではないでしょうか。

患者さんに対する親身の配慮、親身の対応、  
それは患者さんが最も望まれることであり、愛  
される病院づくりにもつながると思います。

# 医療の標準とは



院長 岡村 高雄  
(心臓血管外科医長)

臓器移植が進むにつれて、幾つかの問題点が提起されています。その一つが、脳死患者さんに対して最善の医療、救命のための医療が十分になされたかどうかであります。如何なる医師も又、救急医療に携わっている医師も最善の治療を行っていると確信をしていますが、一部に脳死患者さんに対する救命の治療に疑問点が提起されています。

この問題は根本的には医療の標準とは何かを問うている問題と考えます。ある脳外科医は手術による治療方法を選択する事によって脳死状態に近い人は救命されていたのではないかと述べて、重症の脳死状態の患者さんを手術して救命をしたと報告し、積極的に手術を行う事が大切で、手術をしないような治療はないと言っています。しかし、他の分野と同じように、医療に於いてもまだ治療方法が確立をしていない分野、病気も多々あり、必ずしも手術が全てとは限りません。また、残念ながら日本では一般的に医療における標準化がまだ確立されていない現状です。例えば、手術、検査を行った場合に、ある病院では非常に短い入院日数、安い医療費用、少ない手術後の合併症があるかと思うと、もう一方では長い入院期間を要する病院もあり、ある一つの手術、入院期間についてさえ、明らかな標準がないのが現状です。今後もう少し日本でも医療の標準が出来てくると、各医師、病

院が自己の治療内容をチェック出来て、標準に比べて劣っている場合は改善をするように努力する方向に力が働くとします。この為には各々の病気に対する医療の標準を確立する必要があると考えます。

脳死に近い患者さんの救命に対する評価は標準的な医療が行われたか否かによって判断されるべきものと考えられます。一部の積極的治療による少数の成果のみにより、保存的な治療が間違っていると断定するのは余りにも短絡すぎるのではないかと考えます。先進的な治療が将来の医療の発展に貢献してきた事は歴史上も間違いのないことですが、積極的な医療の名の下にどう考えても救命し得ない治療を行い、患者さん及びご家族に多くの負担をかけ、多大な医療費を費やしている場合もあることも事実です。残念ながら、約20年前に行われた心臓移植が標準的な医療の範囲で行われなかった事が様々な疑念や問題点を現在も提起する誘因の一つと考えますが、最近の臓器移植は標準的な医療のレベルに従って行われてきたと思っています。

但し、臓器提供病院が種々の理由にて急速に拡大をされ、脳死に近い患者さんに対する医療レベル、脳死の判定方法、判定基準、携わるスタッフ等に於いて、病院の標準化があまり重要視されていない点は今後早急に標準化を推進すべきと考えます。

## 心臓の危険信号



第17回健康講座にてお話をさせていただきました内容より、重要な点を列挙させていただきます。

### 狭心症が疑われ心筋梗塞になりやすい症状

● 胸部痛は主として数分間の圧迫感が主体で時に呼吸困難を伴う

- 最近胸の痛みの回数が増大傾向に有り、又痛みの時間が長くなる、又、痛みが消えるまでの時間が長くなる
- 少しの運動、階段の昇降でも痛みが出現をする
- 明け方、早朝に胸の痛みが出現する
- 心電図では異常がないが上記の症状が出現をする場合  
心電図よりも場合によっては患者さんご自身



# 高知市保健所開設 1 年



高知市保健所地域保健課 課長 筒井 洋子

高知市は平成10年4月1日に中核市となり、新たに市が保健所を持つことになりました。市保健所といっても今は元の県中央保健所の2階と塩田町の保健福祉センターの2ヶ所で業務を実施しています。

みなさまは健康診断や狂犬病予防注射などでは保健所を身近にご存じのことでしょう。

保健所では、乳幼児検診や成人検診などの対人保健サービスをはじめとして、食品や飲料水、環境衛生など市民のみなさまが安全快適に生活が出来るようにまた疾病の予防のための健康学習など多くの事業に取り組んでおります。

これらの保健所事業の中から平成10年度の活動について紹介致します。

昨年9月には20数年ぶりの集中豪雨により市東部地区をはじめ多くの地区が浸水し、また山崩れも発生し、大災害となりました。

市では保健所と福祉担当各課が要介護高齢者と障害者単身高齢者を対象に家庭訪問を実施し、生活ニーズ及び介護状況の把握をして緊急入所や入院等の対応をしていきました。

また避難所での健康管理や在宅療養中の市民の健康状態の把握と支援に努めました。

浸水地区の家屋の消毒や公共水路の消毒を集中的に実施し、生活環境を衛生的によりよい状態に保持していくことも大切な業務です。

このような災害時の健康危機管理は保健所が担う重要な役割です。

次に今年3月に市内の中学校で結核の集団感染が発生しました。発生後は結核研究所の所長の指導を頂きながら全職員で最善の対策をとり

ました。

マスコミにも大きく取り上げられましたので市民のみなさまの関心も高く、結核予防講演会を5月に開催したところ、多くの方々が参加して下さいました。

厚生省が平成6年から結核集団感染の統計をとり始めて一番規模の大きい出来事でしたので、高知県内の保健医療関係者や各施設の職員も過去の病気と思っていた結核の新たな課題に真剣に取り組んで下さるようになりました。

小規模な院内感染や施設、学校内の感染は他にも報告されていますが、今後ともに結核の問題は集団感染のみならず、耐性菌感染も大きな課題となっています。

感染症新法が今年4月から新しくなり、明治時代の伝染病予防法が大きく改正され、疾病状況と医療の進歩に応じて患者の人権を尊重した法律になりました。

従来法律では病気が発生してからの対策でしたが、新しい感染症予防法では予防にも力を入れて、感染症情報を提供し、予防に活用することも求められております。

このようにスタートしたばかりの高知市保健所は災害や結核集団感染、感染症新法と21世紀の新たな公衆衛生活動の大きな転換期に向かってその第一歩を歩んでおります。

これからの少子高齢社会の中で市民一人ひとりがその人らしく充実した生活が出来るようにみなさまの暮らしにお役に立てるような保健所を目指していきたいと思っています。

(2頁よりつづき)

の症状が正確な場合が有ります。上記の症状が認められる場合は一度早急に診察を受けてみて下さい。

## 心筋梗塞が疑われる場合

- 胸部痛が15分以上続き、冷や汗、気分不良、

場合によっては吐き気等を伴う

- ニトログリセリンを使用しても胸部痛が改善をしない場合

上記の症状が出現をした場合は、直ちに救急車にて病院へ行き受診して下さい。(岡村)

サルコイドーシス交流会

高知市 和田依子

神様がプレゼントしてくださった自然界はいつも健康そのもの。

穂が出揃って黄緑状に変わった稲穂は収穫に向かって一斉に準備を始める。山の彼方にもくもくと湧く入道雲も力強くたくましい。浅く弧を描いて下った勢いでスイッと上に向き木の枝先にひょいと止まる雀達のスマートな動き。それらは難病サルコイドーシスと診断され、「この病室から解放されるのはいつのことだろうか」と窓にやったけだるい目に写るいつもの光景であった。

健康そのものだった体が何故に？しかも、よりにもよって原因不明の不治の病にかかるとは？やり場のないいらだち、憤り、先の見えない不安。出口のない負の思いと斗った三年前の入院。それは丁度この季節であった。

今、あの時と同じ風景を見、相変わらず自然は健康そのものと実感する。私の心も負の状態から幾度も幾度もジャンプしてやっと正の状態へと戻って来ている。

実は私はサルコイドーシスの疑いありという事で、岡村病院から医大病院に移され、度重なる検査の結果病名確定。入退院の経過を経て、現在、眼科・呼吸器科に月一の割で通院している。

高知市健康づくり課が催す「サルコイドーシス患者・家族の交流会」の案内を受け取ったのは6月半ば。遂にこの悩み多き病も交流会を持つに至ったのかと案内状を手にしてしばし感無量。話題に上る度に何度も聞き直された病名。一度で通じたという例なき程に聞きなれない病名。

症例が少なく珍しい病気ならばどれ位の人が集まるのだろうか。それぞれにかかえる病状は？心の重さは？と、もやもやとした期待感を抱いて7月初め保健福祉センターの門をくぐった。

30人余の集まりに「あなたもか」の親近感に加え緊張度もあったがスタッフの方々の心遣いに和らいで会が始まる。前半は所長さんの病気についての説明。後半でグループ別での交流会を持った。すっきりと整理された形の説明は難病再確認の域は出ないものの何故か淡々と聞く事ができたし、交流会でもその痛みを淡々と受け止めているように感じられた。

とは言っても、先づまりの不安感は拭い難く、知名度が低いだけに他からの理解を得られない孤独な斗いは深刻である。それだけに同病相哀れむ友が得られたこの機会は最初の出会いとして貴重な時であった。

更に、9月、11月に予定されている第2、第3回の会に向けて、生涯背負わされているこの病気と同居していくための知恵の分ち合い、支え合いができるものと皆の期待が大きくかかっているのである。

俳句ボスト

水田雅吉子

春雨に意外に濡れて戻りたる 秋山武子

7月後期からの雨は、昨年秋の水害を彷彿とさせて恐ろしかったですね。大きな雨粒が音立てて降るこんな雨とは違い、春雨の語感には優しく明るいイメージがあります。濡れて戻ってきたのが誰だか書かれてはいませんが、作者ご自身の様な気がします。戸外での出来事など、

季語の働きで春らしい想像を促してくれます。合飲ねむし遠出の靴の紐しかと 青木静枝  
ネムノキは夜になると眠るように葉を閉じる  
ところからその名が付いたと言われます。夕方には紅刷毛様の可憐な花が群れて開き、その風情からか、旅情と共に詠み込まれることが多いようです。靴の紐を締めなおしながら、はや旅人の心となりつつある作者の昂りが窺えます。

受取りし脳の映像早梅雨 八木 敬

人間の脳の神秘は、よく宇宙にたとえられます。200gにも見えない一塊の臓器ではありますが、宇宙という概念を存在せしめたのもこの脳内のこと……何でも入ってしまいます。

CTでこの脳の断面を容易に見ることができる現代ではありますが、臓器として目のあたりにするのはちょっと複雑な気持ちです。「早梅雨」が、そんな思いを代弁するようです。

蝉しぐれ途切れぬ道を出勤す 奥山貴司

「閑かさや岩にしみ入る蝉の声 松尾芭蕉」の句は有名ですが、古今蝉を詠んだ名句はたくさんあります。緑豊かな日本に生まれたお陰で

季節ごとの風物詩の恩恵も受けることができます。街路樹のどの一本にも蝉の声が聞かれ、幸せな一日の始まりです。

種蒔きし畝を大きく飛び越える 秋山武子  
足止めて南瓜の花に里ごころ 青木静枝  
京町はゆかし名七夕竹くぐる 八木 敬  
時の日の森と歩いていたりけり 雅 吉子

## ひろば

### 病院学会に参加して

4 F 詰所 看護婦

田邊かおり



6月10、11日の2日間、北海道で病院学会があり、私達2人参加させて頂きました。各病院から各職種の医療人が集まり、種々のテーマを掲げて考案と実践後の報告が行われました。私達の参加は看護部門が中心でしたが、他に病院管理部門、診療部門、検査、薬剤、リハビリ部門などの各部門に分かれて様々なテーマがありました。各部門に共通している点は、どの部門においても医療の質、看護の質を少しでも向上させるように取り組み、日々努力を重ねているということでした。「医療の質、看護の質を向上させる」言葉では簡単に言えることですが、質を向上させるに当たっては各職種、スタッフの協力が必要になってきます。医療の質、看護の質は患者、家族の安心度、安全度、満足度などによって評価されるものであり、向上をさせて行く過程では多くの問題点、改善すべき点などが出てくるので言葉で言ったり、私達が考えている以上に難しく、大切なことであると思います。

今回、参加して私に関心を持ったのは、学会前に言葉を聞いたことのあったクリティカルパスの導入についてでした。病院によっては既に導入を実践している所もあり、これから導入を考えている病院もあるようです。既に導入し、実践をしている病院からの報告が何例かあり、クリティカルパス作成に要する時間がかかるものの、作成後に実践した結果としては、在院日数の短縮、患者、家族が治療へ積極的に参加で

き、不安の軽減にもつながった。また、医療に関わるスタッフなどの自覚が出来て活性化がはかれる、ミスが減ったなどの効果が聞かれました。しかし、クリティカルパスを導入後も改善点、修正点があるようです。その為にはスタッフの協力と努力が必要となりますが、クリティカルパスは現在、最も注目をされており、どの病院に於いても有効性が高く、医療の質、看護の質を向上させて行く為にも、当病院でも導入の必要性があるのではないかと実感しました。

今回の学会では、記憶に残るものが多く、学んだ点、考えさせられた点がたくさんあり、良い機会であったと思います。

最後にこの様な機会を与えて下さった院長先生、婦長さん、スタッフの皆様に感謝を致します。

### 看護婦として働きだして

4 F 看護婦

松本 幸子



初めて社会にでて、岡村病院で看護婦として働くようになって数週間での出来事です。

患者さんに「これは何の薬やろ？」と聞かれ分からなかった私は「看護婦さんに聞いてきます」と言ってしまうました。その時の患者さんのとまどいの表情をみて我に返り「私は看護婦なんだ……」と思い、学生気分がぬけていない自分を恥ずかしく思いました。

学生の頃は、様々なことを経験するうちに「だんだん看護婦に近づいていきゆう」と喜んでいました。しかし働くようになって、それはまちがいと気づきました。看護婦という資格をとったことはスタートで、これからまた階段を一つずつあがっていかねばならないんだ

と思っています。

社会の厳しさや責任の重さ、自分の心くばりのなさなどを身にしみて感じている毎日ですが、看護婦になりたいと思った時の気持ちを忘れず一生懸命にがんばりますので、よろしく願います。

## 岡村病院に来て

4階 看護学生

下谷 勝代



私は中村高校という普通高校から来たので、看護に対する知識が全くありませんでした。働きながら学校に通うことについても、大きな不安を抱えたままこの岡村病院に入りました。

初めこそは、仕事内容や患者さんとの対応や対処が理解できず、看護婦さんや先輩の学生さん達に迷惑をかけてしまいました。でも、そのたびに先輩方が優しく教えてくれたりして、今では大体の流れは分かるようになりました。

また何よりうれしかったのは、患者さんと仲よくなれたことです。どんなに仕事で疲れていても、患者さんと話していると元気が出てきます。

私はまだ分からないことが多くて、迷惑をかけてると思いますが、一生懸命にがんばりますのでこれからも、色々教えて下さい。

岡村病院に来て、優しい看護婦さんや先輩方、患者さんに出会えてよかったです。

これからも、みんなと一生懸命やって行きたいと思っていますのでよろしくお願いします。

## ニューフェイス紹介



前田 志乃さん

看護婦

香川短期大学附属女子高等学校  
衛生看護科卒

趣味 テニス



山中美佳恵さん

事務員

高知丸の内高校卒

趣味 映画鑑賞

## 心臓血管外科に



笹栗 志朗先生

高知医科大学第2外科教授  
本年4月より高知医科大学に第2外科教授として赴任された笹栗先生が非常勤で来て下さっています。

医学博士

東京医科歯科大学医学部卒

## 第18回健康講座のお知らせ

日時 8月28日(土) 午後1時30分～3時

場所 岡村病院 2階 会議室

会費 無料

演題1 「高血圧の話」

講師 岡村病院内科医長 川村 誠

2 「高血圧の食事について」

講師 岡村病院管理栄養士 山本由紀子

～お誘い合わせのうえ、お気軽にご参加下さい～

### 【血圧～高血圧の話】

血液は心臓から全身の血管に送り出されます。血管の中を流れる血液が、血管の壁に与える圧力が血圧です。最近よく高血圧の話が聞かれると思います。高血圧はめずらしい病気ではありません。40歳以上の人の4人に1人は高血圧といわれ、現在では生活習慣病のひとつとされています。なぜこれほどまでに高血圧が問題にされているのでしょうか。それは高血圧を放っておくと生命を脅かす心筋梗塞や脳卒中などの病気が起こりやすくなるからです。また高血圧は症状がないことが多く、その重要性に気がつかないことも問題です。今回はおもに高血圧に対し日常生活での注意点、対処法など、食事療法を含めてお話しします。

ホームページアドレス

<http://www.okamura-hp.or.jp>

メールアドレス

[info@okamura-hp.or.jp](mailto:info@okamura-hp.or.jp)